

運動スキル獲得におけるスーパースロー映像の活用に関する研究

東北大学大学院教育情報学教育部

伊勢 只義

学位授与年月日：平成26年3月26日

主査：東北大学大学院教育情報学研究部教授 渡部 信一

副査：東北大学大学院教育情報学研究部准教授 佐藤 克美

副査：東北大学大学院教育情報学研究部教授 熊井 正之

本研究では、運動学習者の運動スキル獲得において、スーパースロー映像の活用方法を提案した。

まず運動学習者が目指すべく運動スキル獲得に向けた「課題設定」を構成する要因を明らかにすることを目的として、エキスパートやり投げ競技者を対象に、運動スキル獲得に向けた学習課題の設定に関して、深層的・半構造的・自由回答的インタビューを用いて動作意識の視点から明らかにした。加えて、スーパースロー映像をインタビューに用いて、対象者の運動スキル獲得に向けた課題設定に及ぼす影響を事例的に検討した。結果として、優れた運動競技者は自身の動作意識に注意を向けながら課題を把握し、客観的に観察される動きと自身の動作意識の間で生じるズレを解消していくことで動作意識の洗練化を図っていることが明らかとなったことに加えて、スーパースロー映像を観察することで観察者の動作意識の洗練化を促進することが示唆された。

次に、近年、運動学習に有効であるとされているスーパースロー映像の効率的な活用方法を検討するため、優れた運動指導者を対象として、運動観察におけるスーパースロー映像の観察行動を分析した。分析の結果、スーパースロー映像を運動の観察に活用することで、動作の修正に対する指導者の視点を動作意識に向けさせること、および通常の速度の映

像と併用して観察することによって動的姿勢における動作の課題設定に対する有効性が明らかとなった。さらに、これまで明らかになった結果を基に、実際の練習場面におけるスーパースロー映像の有効性の検証を試みた。ここでは、運動学習者に対してスーパースロー映像と通常の速度の映像を提示し、運動スキル獲得のための課題設定に関する発話を深層的・半構造的・自由回答的インタビューによって得た。これらの手続きを5回にわたり行い、実践前と実践後の運動学習者の運動スキル獲得における課題設定の変容を分析した。結果として、対象者の運動スキル獲得に向けた運動学習者の学習課題の設定は、実践後において自身の試技のスーパースロー映像を観察することにより、観察される動きと自身の動作意識の間で生じる不感性を解消させ、動作の自動化を図りながら課題を一連の動きの中でとらえることが可能になった。

以上のことから、本研究において運動スキル獲得におけるスーパースロー映像の活用提案は実践的検証を基に、運動学習者の課題設定に有効な影響を及ぼし、学習者の記録向上の一助になったと考えられることから、その有効性が明らかにされたと考えられる。

